

ニュース

- 自家軟骨移植術とは？
- 新科長就任のご挨拶 ● 病院指標を公開しました
- ドクターヘリ格納庫完成
- 市民公開講座開催のご案内



市民公開講座開催

2017年3月4日(土)午後1時30分より、地域住民等を対象とした市民公開講座を三島市にある順天堂大学保健看護学部三島キャンパスにて開催致しました。

講演は2部構成となっており、第1部では、当院救急診療科の科長、柳川洋一教授が「日本における災害医療の現状」をお話しされました。過去にあった阪神淡路大震災等の災害時の医療活動もご説明されつつ、ドクターヘリや災害派遣医療チーム（DMAT）の活動について等、現在は災害時にどのような医療活動が行われるのかわかりや

すく解説していただきました。

第2部では、福島県南相馬市にある絆診療所の管理栄養士、鶴島綾子先生が「東日本大震災の甚大な被害を体験して、伝えたいこと」をお話しされました。鶴島先生は、実際に福島県で被災され、その当時の被災地の様子、地震が起きてから現在までの生活についてお話しされました。また、災害が起きた時、最も大切なことは人が人を思いやることであるとお話しされました。

当日は、若い世代の方からご高齢の方まで幅広い年代の約80名の方にご来場頂き、大変好評な市民公開講座となりました。

自家軟骨移植術とは？

自分の細胞を使用した
再生医療の一つです



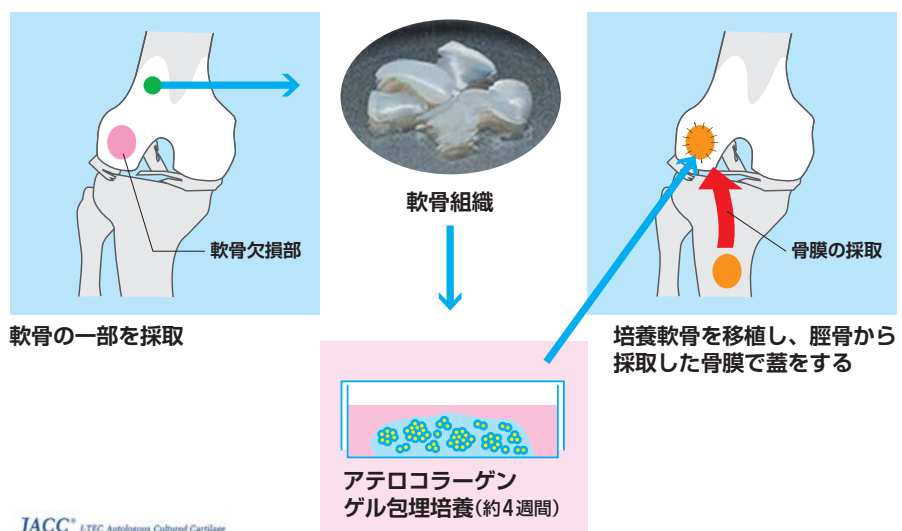
整形外科 前任准教授 おお ぼやし おさむ 大 林 治

①関節軟骨の仕組み

軟骨は関節の表面を覆っている組織で、関節液からのみ栄養を受けています。この関節液が加わることにより軟骨と軟骨の間では氷と氷の間より約5倍滑るようになります。これにより関節はきわめてスムーズに動く事ができます。また、すぐれたショックアブソーバー(衝撃吸収装置)の役目をしてくれます。これは皆さんがよく耳にするコラーゲン、ヒアルロン酸やプロテオグリカンなどの細胞外マトリックスと呼ばれる物質が担っています。特にヒアルロン酸は1グラムで水6リットルを保水することが出来ます。これにより関節にかかる負荷を水の移動によりスムーズに吸収しています。しかし、軟骨は股・膝関節などの大きな関節でも4mm程度の厚さしかありません。しかも血管も神経もなく軟骨細胞が「粗」であるため、ほとんど再生能力がありません。従って、一度損傷すると修復が難しく広範囲の欠損には有効な治療法がないとされてきました。

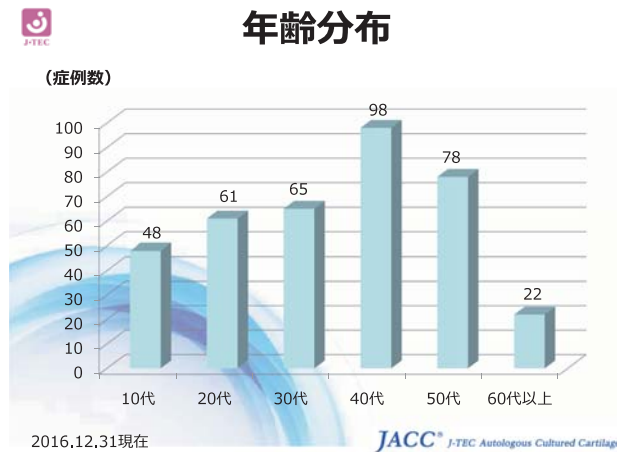
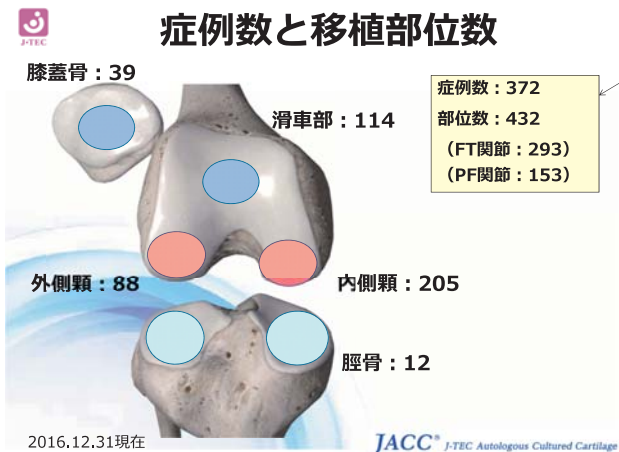
②自家軟骨移植術の歴史

1994年にスウェーデンのBrittbergらが報告したことにはじまります。日本では1996年に広島大学の越智教授らによって発表され、開発がはじまりました。改善を繰り返された現在の方法は、患者さん自身の膝関節からカメラを使用して少量の軟骨細胞を採取し、4週間ほどコラーゲンの一種であるアテロコラーゲンゲル内で培養して増やします。増やした軟骨細胞を欠損した部分に移植をして再生を促します。手術後は約一ヶ月半で歩行ができます。これまで難しいと言われていた大きな軟骨損傷の治療を可能にする最先端治療です。



③治療の現状と実際

自家培養軟骨移植術は2013年4月に保険適応となり、昨年12月までの3年8ヶ月間に全国で372例の患者さんが治療を受けています。厚生労働省が定める基準を満たした医療機関に治療は限られ、現在は全国に約200施設ほどありますが、当院でも本治療が可能です。



適応となる
患者さんは

けがや交通事故・スポーツによる
膝の軟骨損傷で大きさが4平方センチ
メートル以上の場合に適応があります。
残念ながら他の関節や加齢による軟骨変性損傷には適応がありません。

- スポーツによる離断性骨軟骨炎による大腿骨の内側顆部への移植が最多ですが、最近では壮年期の膝蓋骨面の症例が増加しています。
- 上記原因による膝関節の痛みにお悩みの方は、ぜひ当科外来ドクターまでご相談ください。

参考ホームページ

再生医療ナビスポーツ膝研究班
<http://saisei-navi.com/hiza/index.html>

注) 図は全てジャパン・ティッシュ・エンジニアリング株式会社からの提供です



インターネットでもご覧頂けます

当院のホームページに広報誌を掲載しております。次のアドレスまたはQRコードからご覧下さい。

http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/column/pr_magazine.html



新科長就任のご挨拶



形成外科 助教
まつもと しげる
松本 茂

2017年1月1日より形成外科の科長に就任しました松本茂です。

昨年までは順天堂大学浦安病院で勤務し、新生児から御高齢まで幅広い年齢層の患者さんの診療にあたってまいりました。初めての静岡に早く慣れ、地域の皆様に貢献できるよう日々邁進致しますのでよろしくお願い申し上げます。

世の中では、形成外科とは実際にどんな病気

を扱いどんな治療を行っている科なのかよく分からないという声が少なくありません。整形外科と間違えられたり、美容外科との認識であったりします。確かに顔や頭の骨折を扱いますし、美容外科も形成外科の一分野です。見た目や機能を元に戻す再建外科と呼ばれることもあります。皮膚腫瘍、眼瞼下垂、小児の体表奇形、足潰瘍など様々な疾患を扱います。そんな形成外科を一言で表すと”キズ”を扱う科と言えるでしょう。怪我による”キズ”や”キズあと”、手術の際の”キズ”、慢性潰瘍等の治らない”キズ”です。キズが治るメカニズムはまだ解明されていない事が多く、最先端の再生医療なども投入されている分野です。是非”キズ”についてお悩みがあればご相談下さい。

病院指標を公開しました

皆さんは病院に行くとき、どのような情報を基に病院を選んでいきますか？ いくつもの病院がある中で、どの病院が、どのような診療をしているのか比較するためには、統一された基準により、自由に病院を選べる環境が必要となります。

2016年度より厚生労働省は、DPC対象病院*に対して、入院の診療データをホームページで公表することを求めています。

* DPCとは…急性期入院医療を対象とした診断群分類による1日当たりの包括評価制度で、病名と治療内容により診断群分類が決まります。全国統一の基準なので、様々な地域の病院と診療データを比較することが可能です。

今回の病院指標は、2015年4月から2016年3月に退院した患者さんのデータを基に作成しています。

病院指標は、当院のホームページから閲覧が可能です。

URL

http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/about/clinical_indicator.html



掲載内容 (厚生労働省が求める項目の一例)

- 1) 年齢階級別の退院患者数
- 2) 症例数の多い疾患(診療科別)
- 3) 症例数の多い手術(診療科別) など

一例を挙げますと、整形外科の手術の項目では、「人工関節置換術(股)等」が一番多い手術となっています。156人の患者さんに対して、平均して、入院後3.01日の間に手術前の準備が整えられ、手術後は23.26日で退院・転院しています。また、転院率は72.44%で、リハビリテーション専門病院や近隣医療機関との連携の実績を読み取ることができます。

今回のデータ公表を通して、患者さんが直接情報を求められる環境づくりだけでなく、各病院に診療データの質や分析力、説明力の向上を促す目的を有しています。ほかの病院と比較しながら、引き続き医療の質の向上に対する取り組みを進めていきたいと考えています。

❖ ドクターヘリ格納庫完成

この度、当院のドクターヘリ格納庫の完成に至りました。これにより年間を通して安心してヘリコプターを在場させることができ、日々の整備環境も格段に良くなります。格納庫がなかった時、荒天時には遠く離れた空港まで退避する必要がありましたが、今後は不要となるので、天候が回復次第直ちにドクターヘリ出動待機を再開できます。

静岡県東部では、ドクターヘリを国内でいち早く平成15年度から導入しており、平成28年度には年間出動回数1000回を超えるまでに普及してきました。しかしながら運航開始以来、ヘリコプターの運用には不可欠な格納庫が未整備というハンディを負っていました。格納庫が無いと昼夜機体が雨ざらしになる為、精密機械であるヘリコプターにとっては不具合発生リスクが高まります。そのため、より安全で安定した運航を確保する為に、格納

庫の建設を訴える声が高まっていました。こうした状況を、静岡県、地元伊豆の国市はじめ関係各位に深くご理解いただき、用地から予算の確保に至るまで多大なるご尽力をいただきました。

大きく改善されたドクターヘリ運航環境を得て、今後も病院と運航会社とのチームワークで、一層静岡県東部地区の救急医療に貢献してまいります。



ドクターヘリ格納庫



ドクターヘリ格納庫記念式典の様子

市民公開講座開催のご案内

参加
無料

申込
不要

第55回 順天堂大学静岡病院市民公開講座

2017年 5月24日 水 17:30～18:30 (開場17:00から)

『関節リウマチの最新治療』

～適切な治療で「寛解」を目指しましょう～

講師 膠原病内科 准教授 ^{かた} ^{ぎり} ^{あきら} 片桐 彰 先生

第56回 順天堂大学静岡病院市民公開講座

2017年 6月20日 火 17:30～18:30 (開場17:00から)

『脳腫瘍を知ろう』

～病気が見つかる症状と最新の治療～

講師 脳神経外科 先任准教授 ^{やま} ^{もと} ^{たく} ^じ 山本 拓史 先生

第57回 順天堂大学静岡病院市民公開講座

2017年 7月5日 水 17:30～18:30 (開場17:00から)

『パーキンソン病のやさしい診断と治療』

講師 脳神経内科 准教授 ^の ^だ ^{かず} ^{ゆき} 野田 和幸 先生

● 場 所／順天堂大学医学部附属静岡病院 管理棟4階 第1会議室
(静岡県伊豆の国市長岡1129番地)

● 定 員／100名(定員に達した場合はお断りすることもございます)

※参加方法／どなたでも自由にご参加いただけます。
当日、直接会場までお越し下さい。

お問い合わせ 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室
TEL : 055-948-3111(代) FAX : 055-948-2103(直通)

■共催／順天堂大学医学部附属静岡病院／順天堂大学医学部／静岡災害医学研究センター
伊豆の国市／一般社団法人田方医師会

広報誌をご覧の皆様へ

ご意見ご要望等ございましたら、下記までご連絡下さい。

お問い合わせ：順天堂大学医学部附属静岡病院
医療サービス支援センター地域医療連携室
電 話：055-948-3111 (内線) 3550

静岡病院の詳細はこちら

こちらのQRコードより、病院の
ホームページの閲覧が可能です。

<http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

